

## セミナーの講演のタイトルと内容

### セッション1 90分 「進化思想の発祥から進化“論”としての体系化」

進化思想の発祥は、アダムが創造主に反逆した事実に端を発する。主の判断より自分の判断を正しいとする反逆思想は、全能の主の創造を否定する進化思想である。宇宙も地球も生命も全て偶然に発生し、幾十億年の間に高次元の秩序が構築されたという仮説をダーウィンが最終的にまとめ、体系化した。

### セッション2 90分 「“いわゆる進化の証拠”と“全能の主の創造”の科学的検証」

昔から教科書その他で広く使われている“いわゆる進化の証拠”のうち、親しみのあるものを幾つか取り上げて、進化論仮説による説明と創造された前提による説明を、科学的に検証する。進化の証拠だとマスコミなどで次々と大きく宣伝されるが、時を経ずして科学的に否定されている。

### セッション3 60分 「進化論ってホントなの？ マスコミの宣伝と科学的考察」

“進化”という言葉が世間でどのような意味で使われているか、そして“進化”という言葉の生物学的な本当の意味を、易しく説明する。進化が事実である証拠は何一つないことを科学的に説明し、“進化”という言葉だけが意味も無く日本中で一人歩きしている現実を説明する。

### セッション4 60分 「あなたはサルの子孫？ 愛されて命を与えられたのか」

進化論的発想で生物は、アメーバーのような単細胞に始まって順次上等の動物に進化し、サルのような動物になり、そして自分たち人類をそのサルのような動物の子孫と見なしたときに、自分の命・人生がどのように見え、受け取るか？ 愛されて、目的をもって創造された人である人類の起源を確認し、知的にだけではなく人としての尊厳、命の喜びを我が物として噛みしめることが出来るまで深めたい。

### セッション5 90分 「いのちの創造・種類にしたがって創造された動物たち」

5日目にいのちが初めて創造され、海の生き物、空の生き物が、6日目には陸の動物が創造された。主はそれぞれの「種類にしたがって」創造された。「生めよ、増えよ」と子孫が同じ遺伝情報を持って、キリンはキリンとして、ゾウはゾウとして繁栄することである。

### セッション6 90分 「臓器移植の医学的・生物学的・聖書的考察 ～ iPS細胞への人々の期待 ～」

社会の共通認識として“臓器移植が正しいこと・善である”と確立しようと、施政者たちは尽力しているようである。アンケート調査の結果を紹介し、また臓器移植の医学・生物学的な側面を紹介する。また、聖書的に考察する。iPS細胞に熱い期待が寄せられているが、臓器移植にどのような関わりを持つかを考察する。

\*\*\*\*\*